

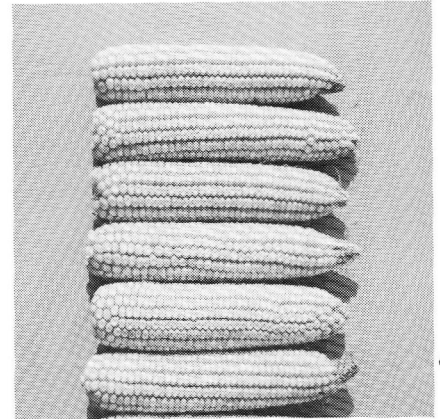
# 牧草と園藝



# F<sub>1</sub>とうもろこしの6月播き栽培

## 草地更新の誘導作物として

老朽化草地更新による牧草生産の一時的落ち込みを補完できる作付体系として道央、道南で注目されております。牧草の1番刈跡地へのF<sub>1</sub>とうもろこし6月播き栽培は1番刈牧草で年間収量の半分以上を収穫した後、更に5-6t/10aの良質なF<sub>1</sub>とうもろこしを収穫できます。



子実収量の高いニューデント95日

播種は6月15日頃までに終るように行います。

適品種は有効積算温度で決定されますが、道央ではニューデント75・85日、道南ではニューデント95・105日が適します。

### 栽培上の留意点

- 牧草根等の分解促進と初期生育時の窒素の奪い合いを防ぐために耕起前に窒素で3kg/10a程度施用します。
- 草地反転からF<sub>1</sub>とうもろこし播種までの作業を手早く行ない、晩期収穫に努めることによりF<sub>1</sub>とうもろこしの生育期間の確保につとめます。この際碎土・整地は充分に行なう。
- 栽植本数は6,000~7,000本/10aとし、密植は登熟の遅れ、倒状を助長しますから避けましょう。
- 牧草跡地はハリガネ虫、ショウブオオヨトウ等の土壌害虫が多いので肥料に殺虫剤を混ぜておきましょう。

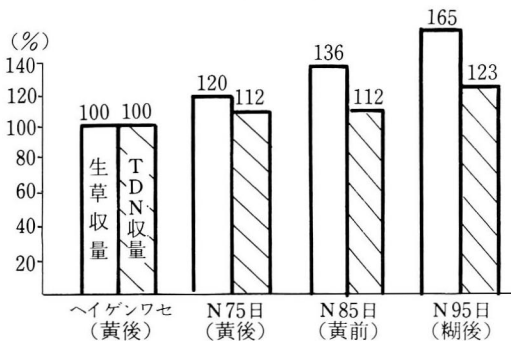
### 作付体系

作物名	9(月).....4	5	6	7	8	9	10
牧草	秋施肥	早春の施肥	放牧又は採草	(草地反転時に堆肥、炭カルの投入を行う)			
とうもろこし			更新播種				収穫

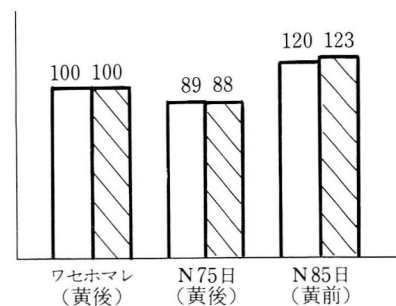
### 品種の選定

中央研究農場(昭52)(札幌市)

美瑛町菅野牧場(昭53)



6.13播種、10.14収穫 (7,700本/10a)  
栽培期間中有効積算温度 869°C



6.16播種、9.27収穫 (6,038本/10a)